道草だより

兵庫医科大学保健管理センター
職員相談室　2022 10 月号

カラッとした爽やかな涼気になり、空が高く澄みわたってきましたが、皆さまお元気でお過ごしでしょうか。外を歩くと、金木犀の甘い香りに、秋の訪れを感じます。この季節には新米が出回りますが、ふっくらつやつやしたお米で作る塩むすびはこの時期ならではのごちそうですね。ポイントは、「強く研がない」「水は少なめ」の2つだそうです。

また、旧暦の10月は、出雲大社に神様が集まると言われていますが、留守を預かるのが「恵比寿神」、実りの秋に恵比寿様をまつって商売繁盛・大漁・豊穣を願う行事が「恵比寿講」で、えびすさんは福を授けてくれる神様だそうですね。どうぞ皆さまにも福がありますように！

参考文献：大切にしたい、にっぽんの暮らし。さとうひろみ　サンクチュアリ出版

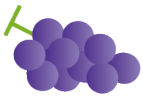
人によって感覚器の感度は違う

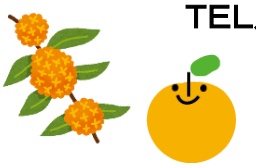
私たちは、五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）を通して、目の前のものが「何であるか」を知り理解をしています。人によって優れている感覚器は異なるようですが、一人の人の中には優れた感覚器があれば、反対に弱い感覚器もあります。

日ごろ私たちは感覚が合う、合わないという言い方をしますが、たとえば、同じ季節の移り変わりを、主に目により視覚で感じる人と、主に音により聴覚で感じる人とでは、感じ方は異なっています。つまり「気になる」あるいは「気にしている」ことが、優位性が違うと異なるのです。視覚に優れている人は、秋になって、赤くなった紅葉の色や形の変化を視覚で捉えて実感します。そして、視覚的に絵や図を使った方が、記憶や処理、そして理解がしやすいです。聴覚に優れている人はニュースなどで紅葉の話を聞き時候の知識としたり、虫の鳴き声などにも敏感で聴覚から音で感じ取っています。日常的にテレビ等の音はわりあい小さな音で楽しめるようですが、大きな音は苦手かもしれません。

優位性が違うと、人とのかかわり方から、学習方法や趣味、そして職業、それらから生ずる幸福感に至るまで、その様相を異にします。認知の偏り方は人それぞれですから、その認知の違う人が同じ空間にいる場合には、互いにその違いを、具体的に理解することが必要になります。夫婦や親子、兄弟姉妹でもその違いはかなりあるようです。

参考・引用文献 「天才と発達障害―映像思考のガウディと相貌失認のルイス・キャロル」岡南著　講談社





TEL／FAX：0798－45－6121（内線6121）　IP（86601）
メールアドレス：shoku-so@hyo-med.ac.jp
相談員　原田　久仁美